

昭和五十一年十二月

飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(三)

藤原宮出土木簡(二)

奈良国立文化財研究所



藤原宮木簡 (1:1)

この概報はさきに公刊した「藤原宮木簡」(昭和50年12月)以後、藤原宮跡で出土した木簡について、その主要なものを収録した。出土点数は一八二点である。なお、大宮大寺跡出土のものを末尾に附載した。

一、木簡出土の地点と状況

第18—7次調査(6AJC 昭和51・2)

第18—7次調査は藤原宮の東外濠SD170の推定位置で、東面中門推定地から南へ85mのところで行った。調査は民家の改築にともなう事前調査であったから、ごく少面積しか発掘していない。この調査は、予想された藤原宮の東外濠SD170の東側3.5m分と、他に柱穴1、土壇2である。SD170は奈良県教育委員会の調査でも発見されている。^(注1)木簡は多量の木片や曲物等とともに36点出土した。

第19—1次調査(6AJC 昭和51・5)

第19—1次調査は、藤原宮の東外濠SD170の推定位置で、東面中門の南180mのところで行った。第18—7次調査と同様民家の改築にともなう緊急調査として行ったので、

調査面積は小さかった。検出したSD170は幅5.3m、深さ0.7mで、木簡は最下層から手斧の削り屑をふくむ多量の木片とともに計19点出土した。

第19—2次調査(6AJH 昭和51・10・11)

第19—2次調査は、藤原宮の推定南面西門の北西にあたるところで行い、宮の内濠SD502と柱穴と小土壇とを検出した。内濠SD502は幅2.1〜2.6m、深さ1mで、堆積層は三層にわかれ、中・下層から多量の木屑とともに木簡55点が出土した。

第20次調査(6AJF 昭和52・6・11)

第20次調査は、藤原宮大極殿の北で大極殿とそれをかこむ北回廊部との間で行い、北回廊の一部と宮造営以前の道路SF1920とSF1731の交叉点、その道路のそれぞれの側溝、道路SF1920の東側でそれにそって南から北に流れる溝SD1901A等を検出した。木簡は宮造営以前の溝SD1901Aから計七二点出土した。この木簡は遺構の年代からみて宮造営以前のものであるから、すべて浄御原令制下のものとみてまずまちがない。

大官大寺跡調査 (GR12 昭和51・4 / 52・1)

木簡は大官大寺中心伽藍の東回廊から約66m東にあたる
ところで検出された土壙SK245から計六点出土した。釈
読できるのは一点のみである。

注1 『藤原宮』奈良県教育委員会

二、木簡の形態分類

6011型式 短冊形。

6015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

6019型式 短冊形と推定できるもの。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをい
れたもの。

れたもの。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを
いれたもの。

いれたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみを
いれ、他端を尖らせたもの。

いれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切りこみが
あるが、他端は折損あるいは腐蝕して

あるが、他端は折損あるいは腐蝕して

不明のもの。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端が尖って他端の形態が
不明のもの。

不明のもの。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 ある種の用途をもつと推定される木製
品に墨書のあるもので、その用途が判
然としないもの。

然としないもの。

6081型式 折損、腐蝕その他によって原形の判明
しないもの。

しないもの。

6091型式 削屑

三、凡例

以下、出土遺構ごとに本文を掲げる。各遺構から出土し

た木簡の配列は用途別に記載し、最上段に出土地点（アル

ファベット・数字）、つぎの段に形態分類記号（本概報で

は千位の6を省き、3ケタで表わす）それぞれ記した。

「」が二個あるものは表裏に記載のあることを示し、「」

の中にさらに「」のあるものは同一面に別筆のあること

を示す。

QR 48

081

□
□
□ 供養 □ 分

□ (大) □
□ 五

QR 52

019

□
□
□ 相女 □ □ □ (年)

□
□

QR 52

081

□ (内妻)
□
□ 自女卅 舟木若子女
直卅五 (南槐) □ □

QR 48

019

但鯉者速欲等云 □ □
以上博士御前白 宮守官

6AJH-SD 502

011

□ □ □ 春了己西了九了 □ □ 人

091

□ (百) □

QR 49

081

□ □ 御御御

QR 48

091

勝

QR 49

091

女卅

QR 49

091

井

QR 49

091

湯 (麻)

QR 49

091

□ (卅) □ 四

QR 48

091

時尔和

QR 52

032

新大刀十口中

QR 49

091

戶主高 (北) □ □

QR 49

081

「御」

QR 48

081

「入語入」

QR 49

011

「依寺」

「有」

「曾」

「有」

QR 50

019

「部我馬」

「瓦」

「大瓦」

「乙」

「舌毛」

「乙」

「虫目」

QR 48

081

「進乎」

「月廿日」

KQ 33

081

「舍人官上毛野阿曾美」

KQ 33

019

「陶官呂人」

KR 33

019

「枚」
縣石嶋 秦稻羽
小者八 和根羽

「八人此急呂而可入食物」

「首果安多」

KO 33

081

「五月五日」

「五月十日」

KO 32

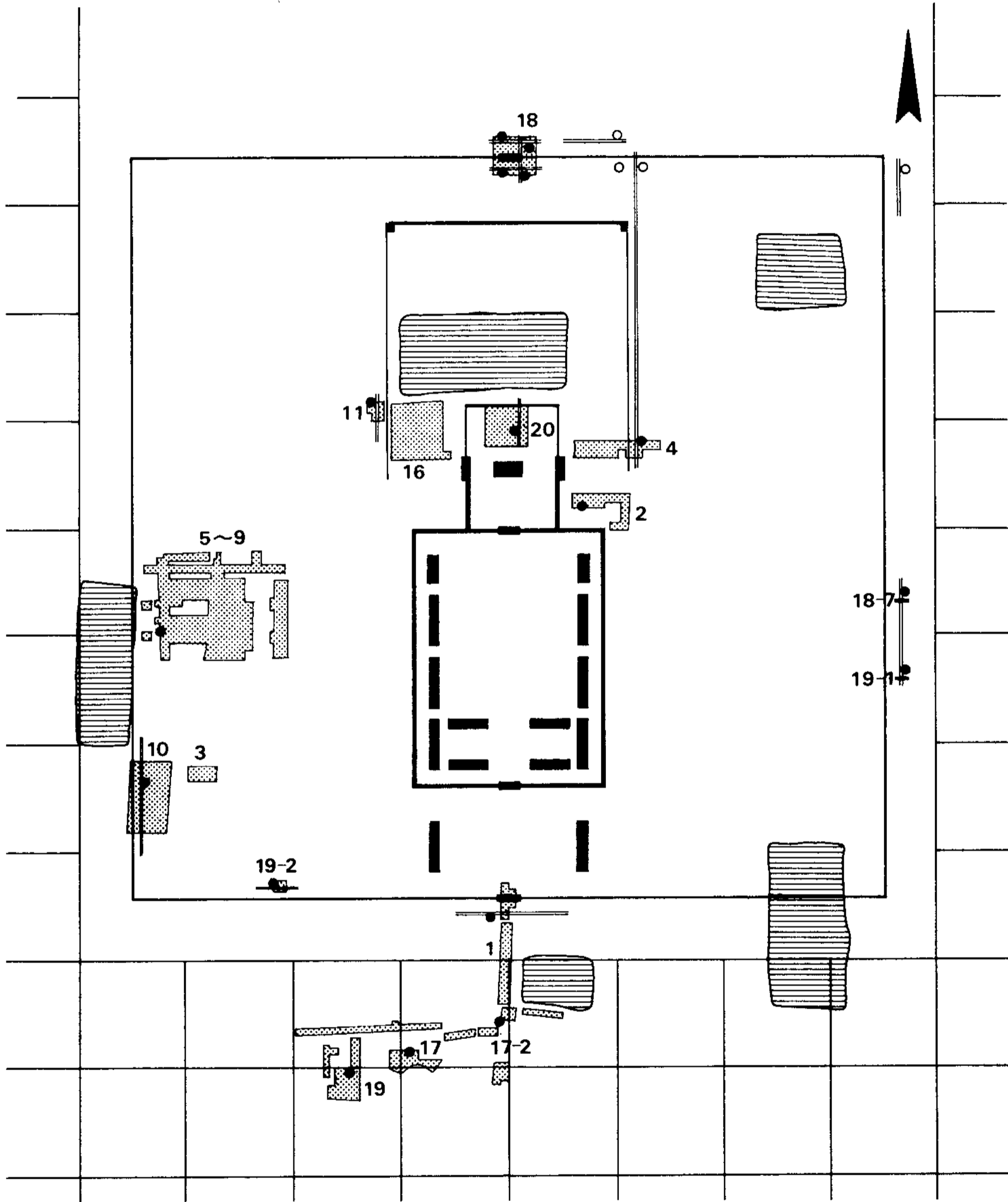
081

「列」

「了大」

6AJF-SD1901A

藤原宮木簡出土地点略図



● 文化財研究所調査
 ○ 奈良県調査
 数字：調査次数